

兵庫県南但馬地域の消防広域化

## 地域住民の安全・安心の確保を目指して

兵庫県 南但消防本部

### 1 南但消防本部の概要

南但消防本部は、東は京都府、西は鳥取県に接する兵庫県のほぼ中央に位置し、養父市と朝来市の2市で構成されています。

管轄地域は85%が中国山地に囲まれた山あい、西に県下最高峰の氷ノ山を擁し、その周辺に県下有数のスキー場を拠点として、四季を通じてアウトドアスポーツや合宿活動等の宿泊観光地として賑わいをみせています。また、地域中央には国の史跡に指定され、日本のマチュピチュと呼ばれている天空の城「竹田城跡」が在り、秋から春にかけて早朝に発生する幻想的な雲海や自然石を配置した石垣を一目見ようと、昨年から訪れる観光客の数が爆発的に増えています。

交通網は、地域幹線道路として国道9号線が東西に、国道312号線が南北に通っており、但馬・山陰地方と山陽地方・京阪神大都市圏を結ぶ拠点として、道路では播但連絡道・北近畿豊岡自動車道(国道483号線)、鉄道網ではJR播但線・JR山陰線が整備されています。



管内人口は約6万人、管轄面積は県下で2番目に広い825 km<sup>2</sup>となり、兵庫県全体の約10%を占めるようになりました。消防本部の位置は、旧朝来市消防本部とし、1本部、2署、2出張所の体制で広域化前の各署所を引き継ぎ配置しました。

平成26年4月1日現在、消防職員数は97人、消防車両は23台を配備して災害に対応しています。

### 2 広域化に至る経緯

消防の広域化は、平成18年の消防組織法の一部改正により、兵庫県は平成21年6月に「兵庫県消防広域化推進計画」を策定し、消防力に関する現状や将来の見通しを踏まえて、消防の広域化を推進する必要があると認める市町の組合せや今後の消防広域化推進の方向性を定め、平成24年度までを目標に市町の自主的な消防の広域化を推進することとしました。

このことを踏まえながら、養父市と朝来市では、管轄区域の人口減少や多様な消防ニーズなど、社会環境の変化に的確に対応するため、消防力強化による市民サービスの向上・行財政運営の効率化及び基盤の強化を図ることを目的とし、平成23年8月1日に「養父市及び朝来市消防広域化協議会」を設立し、平成24年度末の消防広域化を目途に協議会、幹事会及び専門部会において協議を重ねました。

平成24年7月には「養父市及び朝来市広域消防運営計画」を策定、同年8月に「養父市及び朝来市消防広域化協定書」に両市長が署名調印し、広域化の方式、期日並びに消防本部の位置・名称等18項目が決定。平成25年1月8日付で組織の母体である南但広域行政事務組合の規約変更が兵庫県知事から許可書の交付を受け、平成25年4月1日付で南但消防本部として組織運営する運びとなり、広域化1年が経過しました。

### 3 広域化の効果

近年、災害の多様化・大規模化はもとより、高齢化による救急件数の増加、救急業務の高度化や予防行政の強



消防広域化調印式



南但消防本部発足式

化等、消防を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。これらの課題を克服するためには、ハード面の整備や人員の育成・確保が不可欠であり、限られた財源や人員で、消防力の充実・強化を図っていく必要があります。こうした中、広域化によって本部業務の統合により、総務事務等の効率化、通信指令業務の一元化による余剰人員を現場活動要員に配置換えすることで初動活動人員が増強されました。さらに本部の保有部隊数も増強されたため、初動時から災害種別・規模に応じた効率的な部隊運用ができるようになり、救急事案の輻輳時にも広域化前の救急車全隊出動による対応不可な状態を大幅に減少することができました。また、旧管轄区域境において、直近の署所からの出動による現場到着時間の短縮が図られました。

経費面でも、今後整備予定の消防救急無線デジタル化費用のほか、中・長期的な計画整備により、消防車両や消防施設の重複投資を防ぎ、資機材の適正配置を行うことで経費削減の効果が期待できます。

## 4 おわりに

平成25年4月に新たに南但消防本部として発足し1年が経過しましたが、この1年間は、南但消防本部の組

織を築いていくための土台作りの年でした。今後は、この土台に倒れることのない強固な柱を立て、市民に信頼される力強い組織を職員一丸となって作っていくことが重要と考えます。

そのためには、消防広域化運営計画等の諸計画を適宜検証し、時代に即応した、地域に適した消防施設整備並びに定員管理等を行っていく必要があります。

今後も構成市及び関係機関との連携を強化し、市民が安全に安心して暮らせるよう消防体制の充実強化に向け万全を尽くします。



平成26年消防出初式訓練